

STUDIA TIBETICA No. 42

BASIC STUDIES FOR TIBETAN BUDDHISM
西藏仏教基本文献

第七卷

福田 洋一

財団法人 東洋文庫

2002

STUDIA TIBETICA No. 42

BASIC STUDIES FOR TIBETAN BUDDHISM

西藏佛教基本文献

第七卷

福田 洋一

財團法人 東洋文庫

2002

STUDIA TIBETICA No. 42

BASIC STUDIES FOR TIBETAN BUDDHISM

Volume 7

Index to the Prepositions of Tibetan Logic

Compiled by Yoichi Fukuda

THE TOYO BUNKO

2002

平成14年3月25日 発行

非 売 品

西藏仏教基本文献（第七巻）

編 者 福 田 洋 一
発行者 斯 波 義 信
印刷所 株式会社 東 京 プ レ ス
依 田 正 人
東京都板橋区桜川2丁目27番12号
発行所 財団法人 東 洋 文 庫
東京都文京区本駒込 2 丁目28番21号

本書は東洋文庫に対する平成十三年度文部科学省補助金の一部により刊行された。

はじめに

本書は、1961年以来、東洋文庫において行われている「チベット人との共同によるチベットの言語・歴史・宗教・社会の総合的研究」の成果の一部である。

本シリーズ『西藏仏教基本文献』はチベット仏教の研究に資する基礎的な資料を提供することを目標としている。本書は、チベット論理学の基本的文献であるドゥラ（bsdus grwa）書から抽象的な概念について述べられる様々な命題を収集し、アルファベット順に並べ直したものである。チベット人僧侶は、出家をして寺院で仏教を学び始めるとき、まずこれらの抽象的な議論の方法を徹底的にたたき込まれる。一読してもその文の意味を把握しかねるような難解で長大な論証式を駆使して、口頭で議論のやり取りをすることが求められる。われわれ外国人研究者にはそのような方法を実践することは極めて困難であるが、彼らが習熟している概念理解の代替物として、様々な索引や命題集などの工具書があれば、かれらの議論を時間をかけて辿り直すことくらいはできるであろう。本書はそのような意図のもとに、ゲルク派で用いられている著名なドゥラ書から命題を収集し、概念ごとに整理して、チベット論理学の基本的な諸概念の体系的な理解が得られるようにしたものである。

本書は資料集として作成したので、個々の概念についての分析はしていない。これについては、今後、本資料による研究を元に総合的な解説を書くことしたい。またチベット論理学を理解するために必要な論理学的文法についても、本書では必要最小限の解説を加えただけである。実際にドゥラ書を読むためには、個々の概念内容以上にチベット論理学の独特の表現方法や論証形式についての知識が必要である。これについての記述も将来の課題としたい。

編者は、東洋文庫外国人研究員として長年チベット研究室に滞在されたゲシェ・テンパゲルツエン師にセ・ドゥラの指導をいただいたことにより、本書で扱ったようなチベット論理学独自の概念と用法を研究する端緒を与えられた。師なくしては、これら難解なドゥラ文献を少しでも理解できるようになることはなかったであろう。深甚の謝意を表したい。本書で、ラトゥー・ドゥラとともにセ・ドゥラを素材としたのも、師のご指導に少しでも報いるためである。本書が少しでも師へのご恩返しとなることを願っている。

2002年3月

福田洋一

凡例

本書で扱ったチベット論理学書は、ゲルク派の代表的なドゥラである次の二書である。

- *tshad ma rnam 'grel gyi bsdus gzhung shes bya'i sgo 'byed rgol ngan glang po 'joms pa gdong lnga'i gad rgyangs rgyu rig lde mig bzhugs so //* (Pan-chen bsod-nams grags-pa Literature series, 73). Drepung Loseling Library Society, 1991. 2nd ed. (Rと略記)
- *tshad ma'i dgongs don rtsa 'grel mkhas pa'i mgul rgyan // bse ngag dbang bkra shis.* 民族出版社、1987. (Sと略記)

本書はこれら二書の中から、伝統的な存在論で扱われるような概念を中心に、次節で述べるような方法で命題を抽出し整理したものである。本書は網羅的な索引を提供するものではなく、また、原典に忠実な引用も意図していない。必要に応じてチベット文を、より形式的な命題表現に書き換えている場合がある。誤植などを訂正した場合も特に断っていない。したがって、一応の典拠となるページ数を挙げているが、本書に収録された文がそのまま原典に見出されるわけではない。本書はまた上記二書の全ての章を対象としたものではなく、扱われている章の全ての論証式から命題を抽出したわけでもない。個々の概念の意味や用法についての理解に資すると思われる命題のみを編者の責任において選択した。繰り返し言及される命題についても、その出現箇所を全て挙げてはいない。あくまで、概念の理解を助けるための文例集と考えていただきたい。

本書が対象とした章は、

Rwa bstod bsdus grwa

bse bsdus grwa

kha dog	yod rtogs med rtogs
gzhi grub	yin log min log
ldog pa ngos 'dzin	ldog pa ngos 'dzin
yin log min log	gcig dang tha dad
yin gyur min gyur	rgyu 'bras
rgyu 'bras chung ba	yul dang yul can
spyi bye brag	spyi dang bye brag
rdzas ldog	'gal 'brel
'gal 'brel	mtshan mtshon
yod rtogs med rtogs	cha pa'i lugs kyi rdzas ldog
mtshan mtshon che ba	rang mtshan dang spyi mtshan
gzhan sel	sel 'jug dang sgrub 'jug
	dgag sgrub
	gzhan sel

の諸章である。以上の章名を各テキストのページ表記の後に示した。本書で整理した命題は、元々のコンテキストから切り離されたものであるので、それが属していた章名が理解の助けになるかもしれない。

本書は2部に別れている。第一部「Sorted by subjects」は、収集した命題を単純にチベット文字アルファベット順に並べたものである。第二部「Sorted by topics」では各命題で言及されている主要な概念ごとに命題を並べた。一つの命題から複数の概念を切り出した場合には、同一の命題がそれぞれの項目に重複して掲載されている。各項目内は、その命題のアルファベット順に配列した。

各命題の主語（主部）と述部の間は、 \mapsto で区切られている。ただし、場合によっては述部自身の中に主語と述語が現れるような場合もあるので、この記号による分割は単なる目安にすぎない。

解 説

チベット論理学を理解する場合、そこに使用される様々な概念の意味の理解と、論証そのものの仕方についての狭義の論理学的な理解の二つが必要である。後者については実際のテキストを表層構造としてその背後で成り立っている論理学的文法の深層構造を解明する必要があるが、その探求は容易ではない。一方、前者については実際の論理学書の記述を元に帰納的に確定することができるので、まずこちらの方から研究を進めるのが捷径である。その際、これらの概念——たとえば *gcig* と *tha dad*、*spyi* と *bye brag*、*mtshan nyid* と *mtshon bya*、*ldog pa* など——について様々な箇所で別々のコンテキストのもとに述べられた命題群を、それぞれの概念のもとに収集し総覧すれば、その概念の意味を確定しやすくなるであろう。実際のテキストでは、個々の命題は後続の命題によって根拠づけられている。本書では、そのような成立根拠への問い合わせ取り敢えず後回しにし、個々の概念について、どのようなことが言及されるかを総覧できるようにした。

チベット論理学の典型的な論証式は、次のような形態をとる。

- (1) A を主題として
- (2) B であることが帰結する。
- (3) C であるが故に。

伝統的な術語では A は「議論の主題 *rtsod gzhi*」、B は「帰結 *gsal ba*」、C は「論証因 *rtags*」と呼ばれる。このうち、帰結ないしは議論の主語が論証式の主題と一致する場合には、それらに対する主語は明示的には表現されないことが多い。主題が後続の述部に対して主格以外の関係にある場合には、その主題は *khyod* によって代替され、それに格助詞が付加される。ただし、主格で接続する場合でも *khyod* で表現することが可能であり、実際にそのような形で本書に採録された命題もある。主題を明示せずに主語が示される場合には、*de* などの指示代名詞が主語に後置されることが多い。本書では、主題が主語を兼ねる場合や主題なくして主語がくる場合などを区別することなく、前者についてはあたかも *chos can* によって主語が示されているかのように扱っている。

さて、先の論証式の表層的な表現形態から三つの潜在的な命題を抽出することができる。

- (1) A は B である。A *chos can* / B *yin* /
- (2) A は C である。A *chos can* / C *yin* /
- (3) C であるならば、B であることによって邊充される。C *yin na* / B *yin paṣ khyab* /

このうち、第一と第二の命題は主語と述部からなる単純命題であり、第三のものは前件と後件からなる複合命題である。前者の単純命題はチベット論理学のもっとも基本的な命題形式であり、後者の複合命題も最終的にはこの単純命題に還元することができる。単純命題は、二つの名辞が繋辞によって結ばれている西洋の古典論理学の命題とは異なり、述部を構成する B ないし C を独立の名辞として考えることはできず、必ず「B である」ないしは「C である」という述定として理解する必要がある。

さて、後者の複合命題である遍充関係を表す命題は、前件、後件ともに基本命題のヴァリアントと言える。この場合、主語は x で表されるような変項と考えられる。すなわち

x がCであるならば、その x はBであることによって遍充される。

というように言い換えることができる。さらにこの前件は、「Cであるところのもの」という、Cという述語によって特定される一群の名辞・概念群を主題として指定するための独特の表現形態と考えることができるので、結局、この複合命題は、

Cであるところのものは、必ずBである。

というような、様相概念を含む単純命題に還元することができる。しかし、これを「CはBである」という形に還元できないことには注意する必要がある。あくまで、Cもまた述語として、そのように述定できる対象群を指定する働きを持つのである。このような前提のもとに、本書では、この遍充関係の前件もまた、基本命題の主語と同じ位置にくるものと考えて整理してある。

以上の説明は原則を述べただけであり、実際にはこれらの原則に合わない場合もある。述部全体が代名詞によって表されたり、あるいは述部が単に「ある」ないしは「存在しない」というような存在命題になっていたり、述部自体が主語と述部からなる要素命題であることもある。ただ、いずれの場合もチベット語として見れば自然なものであるので、本書ではこれら原則にはずれるものも、規則に押し込めることはしなかった。これら形式的側面については、チベット論理学の論理学的文法を解明することで答える必要がある。

本書で言及しているトピックスのうち、*mtshan nyid* の項と *don gcig* の項はやや特殊なものである。ここには論証式の中で言及されている概念の定義や同義関係の命題が集められている。もちろん、これも先の方針通り網羅的なものではなく、編者により取捨選択されたものである。ドゥラで規定される様々な概念の定義や分類、同義関係については、既に西沢史人氏の労作により、他の多くのドゥラ、論理学書のものとともに網羅的に整理されている⁽¹⁾。本書の欠を補うものとして参照されたい。

⁽¹⁾ Nishizawa Fumihito, *Materials for Tibetan Logic*, The Toyo Bunko Database CD, Release 1, 1997.

目 次

はじめに	iii
目次	v
凡例	vii
解説	ix
1. Sorted by subjects	1
2. Sorted by topics	57
Index	146

1. Sorted by subjects

ཀ·ሳ·ჰු·ෂ්‍රා·පි·ක·න·

→ ཀ·ሳ·ධී·ෂ්‍රා·පි·ක·න· R069 (spyi bye brag)

ཀ·ሳ·ක්·ශ·

→ ჰු·ද·ඡ·පි·ක·න·යා·යා·ය· R459 (gzhan sel)

ཀ·ሳ·ද·ද·යා·ය·ක්·ශ·

→ ཀ·ሳ·ද·ද·යා·ය·ය·ද·ඡ·බෑ·ය· R118 ('gal 'brel)

→ ཀ·ሳ·ද·ද·යා·ය·ය·ද·ඡ·බෑ·ය· R118 ('gal 'brel)

→ ཀ·ሳ·ද·ද·ය·ද·ඡ·බෑ·ය· R118 ('gal 'brel)

→ ཀ·ሳ·ද·ද·ය·ද·ඡ·බෑ·ය· R118 ('gal 'brel)

ཀ·ሳ·ද·ද·ජ·ක්·ශ·

→ ກ·ሳ·ධී·ჰු·ද·ඡ·පි·ක·න· R033 (ldog pa ngos 'dzin)

→ බක්·වක්·ශ·ද·ද·ය· R033 (ldog pa ngos 'dzin)

ກ·ሳ·ය·පි·ක·ය·ක්·ශ·

→ ჰු·ද·ය·ක්·න·ჰු·ෂ්‍රා·පි·ක·න· R084 (spyi bye brag)

ກ·ሳ·ය·ස·ද·ද·ෂ·ෂ්‍රා·ය·ක්·ශ·

→ ჰු·ද·ჰු·ද·ෂ·ෂ්‍රා·ය· R063 (rgyu 'bras chung ba)

ກ·ሳ·ධී·ჰු·ද·ය·ක්·ශ·

→ ඩී·හු·ද·ය·ද·ද·ය·ය·ද·ද·ය· R103 ('gal 'brel)

→ ඩී·හු·ද·ය·ද·ද·ය·ද·ද·ය· R103 ('gal 'brel)

ກ·තු·ම·ය·ක්·ශ·

→ ද·ද·ෂ·ර·ද·ද·ය·ද·ද·ය·ද·ද·ය· R104 ('gal 'brel)

→ ද·ද·ෂ·ර·ද·ද·ය·ද·ද·ය·ද·ද·ය· R104 ('gal 'brel)

→ ද·ද·ෂ·ර·ද·ද·ය·ද·ද·ය· R104 ('gal 'brel)

ཀླସୁଧା ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ହୃଦୟାର୍ଥକ୍ଷେତ୍ରମାନୁଷ୍ଠାନକା

→ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ବକଳିନ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ବକଳିନ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ
R168 (mtshan nyid mtshon bya)

୩୩ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ହୃଦୟାର୍ଥକ୍ଷେତ୍ରମାନୁଷ୍ଠାନକା

→ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ହୃଦୟାର୍ଥକ୍ଷେତ୍ରମାନୁଷ୍ଠାନକା ଯଦି ବକଳିନ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ବକଳିନ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ
R170 (mtshan nyid mtshon bya)

୩୩ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ହୃଦୟାର୍ଥକ୍ଷେତ୍ରମାନୁଷ୍ଠାନକା

→ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ହୃଦୟାର୍ଥକ୍ଷେତ୍ରମାନୁଷ୍ଠାନକା ଯଦି ବକଳିନ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ବକଳିନ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ
(mtshan nyid mtshon bya) R168

୩୩ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା ତକା

→ ଶ୍ରୀ ହୃଦୟାର୍ଥକ୍ଷେତ୍ରମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା ତକା
S300 (gzhan sel)
→ ଶ୍ରୀ ହୃଦୟାର୍ଥକ୍ଷେତ୍ରମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ବକଳିନ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ
R104 ('gal 'brel)
→ ଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା ତକା
R460 (gzhan sel)
→ ଶ୍ରୀ ହୃଦୟାର୍ଥକ୍ଷେତ୍ରମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା
S300 (gzhan sel)
→ ଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା
R460 (gzhan sel), S300 (gzhan sel)
→ ଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା
S300 (gzhan sel)
→ ଶ୍ରୀ ହୃଦୟାର୍ଥକ୍ଷେତ୍ରମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା
R460 (gzhan sel)
→ ଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା
R015 (gzhi grub)
→ ଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା
S124 (spyi bye brag)
→ ଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା
R015 (gzhi grub)
→ ଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା
R015 (gzhi grub), R041 (yin log min log)

୩୩ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା ଯଦି ଶ୍ରୀ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା ଯଦି ଶ୍ରୀ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ

→ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା ଯଦି ଶ୍ରୀ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ କଷା ଯଦି ଶ୍ରୀ
S278 (sel 'jug sgrub 'jug)

୩୩ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି କଷା

→ ଶ୍ରୀ ହୃଦୟାର୍ଥକ୍ଷେତ୍ରମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି କଷା
R090 (rdzas ldog)

୩୩ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି କଷା ଯଦି ଶ୍ରୀ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ

→ ଶ୍ରୀ ହୃଦୟାର୍ଥକ୍ଷେତ୍ରମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି କଷା
S266 (rang mtshan spyi mtshan)

୩୩ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି କଷା ଯଦି ଶ୍ରୀ ଗ୍ରୂପ୍ ମନ୍ତ୍ରିଶ୍ରୀ ଯଦି କଷା

↪ ພາບ ຊະ ສີ ມກຄ ຂີ່ ພິກາ | S268 (rang mtshan spyi mtshan)

ຂົດ ຕີ່ ສາມ ກັບ ອຸນ

↪ ສູ້ ພິກາ | R049 (yin log min log)
↪ ດສລາ ສູ້ ພິກາ | R049 (yin log min log)
↪ ມີ ກຸ່ ສາ ພິດ ມກຄ ຂີ່ ພິກາ | R006 (gzhi grub), S054 (yod rtogs med rtogs)
↪ ມີ ກຸ່ ສາ ພິດ ດສລາ ແດ້ ກັບ ສາ ສູ້ ມກດ ສິ ພິກາ | R019 (ldog pa ngos 'dzin)
↪ ດະ ສີ ສູ້ ພິດ ດສລາ ສູ້ ພິກາ | R050 (yin log min log)
↪ ດະ ສີ ດສລາ ສູ້ ສູ້ ພິກາ | R049 (yin log min log)

ຂົດ ຕີ່ ສາມ ພິກາ

↪ ມີ ກຸ່ ສາ ພິກາ ພາ ຖຸ ສາ | R006 (gzhi grub), R014 (gzhi grub)

ຂົດ ຕີ່ ສາມ ພິດ ດສລາ ແດ້ ກັບ ສາ ກັບ ອຸນ

↪ ຂົດ ຕີ່ ສາມ ພິດ ດສລາ ແດ້ ກັບ ສາ ສູ້ ມກດ ສິ ພິກາ | R020 (ldog pa ngos 'dzin)

ຂົດ ຕີ່ ສາມ ພິດ ດສລາ ແດ້ ກັບ ສູ້ ມກດ ສິ

↪ ມີ ກຸ່ ສາ ພິດ ດສລາ ພິກາ ພາ ຖຸ ສາ | R019 (ldog pa ngos 'dzin)

ຂົດ ຕີ່ ສາມ ພິດ ມກດ ປຸ ກັບ

↪ ຂົດ ຕີ່ ສາມ ພິດ ດສລາ ແດ້ ກັບ ສາ ສູ້ ມກດ ປຸ ພິກາ | R019 (ldog pa ngos 'dzin)
↪ ມກດ ປຸ ພິກາ | R019 (ldog pa ngos 'dzin)

ຂົດ ຕີ່ ສາມ ພິດ ມກດ ປຸ ພິກາ

↪ ມີ ກຸ່ ສາ ພິດ ດສລາ ພິກາ ພາ ຖຸ ສາ | R018 (ldog pa ngos 'dzin)

ຜູ້ ໄດ້ ດາວ ສາ ບິ ແດ້ ອຸນ

↪ ຜູ້ ດັດ ສາ ດັດ ແດ້ ພາ ຖຸ ສາ | R015 (gzhi grub)

ຜູ້ ໄດ້ ສູ້ ພິກາ

↪ ຜູ້ ດັດ ດສລາ ມີ ດສລາ ສາ ບິ ພິກາ ພາ ຖຸ ສາ | R114 ('gal 'brel)

ຜູ້ ໄດ້ ສູ້ ແດ້

→ རྒྱ ད ས୍ତୁ ས མ ཕ ག བ ང ཏ ཉ ན ང ཏ ཉ ན S084 (rgyu 'bras chung ba)

ସ୍ଵର୍ଗ-ଶ୍ରୀ-ଦ୍ଵାରା-ପରମା-ଶ୍ରୀ-ଶବ୍ଦି-ଶେଷ-ପ୍ରେସ-ନା

ପ୍ରଦ୍ଵୀପାଧ୍ୟକ୍ଷ

→ རྒྱଦ-རྒྱଦ-ନ୍ଦ୍ର-ଶକ୍ତିଶାମ-ଘେନ-ଧ-ଘଷ-ହ୍ରେଶ-ଧଶ-ତ୍ରସା | S069 (ldog pa ngos 'dzin)

→ བྱුද්-නු-ස-නු-ය-න-දු-න-ය-න- ສ069 (ldog pa ngos 'dzin)

༄༅·༅·༅·༅·༅

→ རྒྱྲୟୁସ୍ମା ପାହନ୍ତରୀ ପିନ୍ଧିକା ପଣ୍ଡା ପାହନ୍ତରୀ S068 (ldog pa ngos 'dzin)

༄༅·ཀྱු·මූ·ස්වා·යේ·නා

→ རྒྱදྷ རྒྱଦ དଙ୍ଗ བྲୋ རྒྱଦ བྲୋ S281 (rigs brjod dang tshogs brjod)

ପ୍ରଦ୍ୟୁମ୍ନଶକ୍ତିକା

→ བྱුද්ධ-සନ୍ତୋଷ-କୌଣସି-ଦ୍ୱୀପ-ଘର-ପଶୁ-ପାତା R117 ('gal 'brel)

→ ପ୍ରଦ୍ୟୁମ୍ନିକ୍ସାପ୍ରଦା R074 (spyi bye brag)

༄༅·ཀྱු· ས୍ତୁ· ສଶା· རྒ· ລ

→ ཞོ་ན්ୟි་ཡිན་པག་ප්‍රසා | S114 (spyi bye brag)

ସ୍ରୀମଦ୍ଭଗବତ

→ བྲୁ-ମହେ-ପ୍ରୁଣ୍ଡିନ-ସା-ତ୍ରୀଷା R009 (gzhi grub), S116 (spyi bye brag), S139 (mtshan nyid mtshon bya)

༄༅·ཀྱු·ཡින·པ·མේද·ක

→ ཤ්වද්-මා-ཡි-ක-ය-අ-ස-ව්-ෂ-ා-ඩ-ඹ-ද-ස-අ-ශ-ා-ග-්-භ-ා-ස-ා- ර460 (gzhan sel)

ପ୍ରଦ୍ୟୁମ୍ନା

→ ଯୁଲ୍ କନ୍ ଚିକ୍ ସାତ୍ରସା S100 (yul yul can)

ପ୍ରଦ୍ରଶ୍ନେଷାଧୟିକା

ਤ੍ਰੈਦਾਂ ਵਾਂ ਥਾਂ ਥਾਂ ਥਾਂ ਮੇਦਾਂ ਪਿਕਾਂ

- སྤ୍ରୁදྷྱྤୀ ମକକ୍ କ୍ଷିଦ୍ କୁ ପା ଶା ଶା ପଶା ତ୍ରୁଷା S141 (mtshan nyid mtshon bya)
 - སྤ୍ରୁදྷྱྤୀ ମକକ୍ କ୍ଷିଦ୍ କୁ ପା ଶା ପଶା ପଶା ତ୍ରୁଷା ତ୍ରୁଷା S144 (mtshan nyid mtshon bya)
 - སྤ୍ରୁදྷྱྤୀ ମକକ୍ କୁ ପା ପିକ୍ ପା ଦ୍ରୁଦྷྱྤୀ ହସା ପଶା ଶା ଶା ପଶା ପଶା ତ୍ରୁଷା R162 (mtshan nyid mtshon bya)
 - སྤ୍ରୁදྷྱྤୀ ହସା ପଶା ଶା ଶା ପଶା ପଶା ତ୍ରୁଷା ତ୍ରୁଷା S144 (mtshan nyid mtshon bya)
 - སྤ୍ରୁදྷྱྤୀ ହସା ପଶା ଶା ଶା ପଶା ତ୍ରୁଦྷྱྤୀ ମକକ୍ କ୍ଷିଦ୍ କୁ ପିକ୍ ପିକ୍ ପଶା ତ୍ରୁଷା S120 (spyi bye brag)
 - སྤ୍ରୁදྷྱྤୀ ତେଶା ପହଞ୍ଚଦ୍ ଯଦି ଜ୍ଞାନି ଦ୍ଵାରା କୁ ପିକ୍ ପଶା ତ୍ରୁଷା S099 (yul yul can)
 - སྤ୍ରୁදྷྱྤୀ ଦର୍ଦ୍ଦ ବା ଦର୍ଦ୍ଦ ମା ପିକ୍ ପଶା ତ୍ରୁଷା S117 (spyi bye brag)
 - སྤ୍ରୁදྷྱྤୀ ଦର୍ଦ୍ଦ ବା ଦର୍ଦ୍ଦ ମା ପିକ୍ ପଶା ତ୍ରୁଷା S131 ('gal 'brel)
 - སྤ୍ରୁදྷྱྤୀ ଦର୍ଦ୍ଦ ବା ଦର୍ଦ୍ଦ ମା ପିକ୍ ପଶା ତ୍ରୁଷା S099 (yul yul can)

- དྲ୍ଷଣ୍ୟଦର୍ଶାଯକାମକାଳୀନୀକୁ S133 ('gal 'brel)

༄༅·དྲྱନ୍ତଶ୍ରୀ·ସାହୁ·ମହିଳାକାଳୀ

ශ්‍රද්ධාත්මකා ශ්‍රද්ධාත්මකා ස්වභාවික ව්‍යුහය මෙයින් ප්‍රාග්ධන කළ යුතු වේ

- ପ୍ରଦ୍ଵାନେ ଯେତି କୁଣ୍ଡଳୀ ପଣ୍ଡା S114 (spyi bye brag)

༄༅·ནྚ୍ସ·དྱୁମ୍ବିନ୍·କ୍

ප්‍රදානයීම් දරුණු සූචිකරණ

- རྒྱྲ་'བྻ་པྱྻଶାସ୍ତ୍ର སୁପ୍ରଦୀପନାମିକାନ୍ତିଷ୍ଠିକାପଣାତ୍ମକା R059 (rgyu 'bras chung ba)

ਤੁਦਕਸਾਧਿਕਾ

- ତੁਦਕਸਾਧਿਕਾ S084 (rgyu 'bras chung ba)

ਤੁਦਨਦਸਾਧਿਕਾ

- ତੁਦਨਦਸਾਧਿਕਾ S067 (ldog pa ngos 'dzin)
→ ମਕਲਾਚੁਧਿਕਾ S067 (ldog pa ngos 'dzin)

ਤੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ

- ତੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ R456 (gzhan sel)
→ ତੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ R169 (mtshan nyid mtshon bya)
→ ତੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ R063 (rgyu 'bras chung ba)
→ ତੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ S069 (ldog pa ngos 'dzin)
→ ତੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ R116 ('gal 'brel)
→ ତੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ R118 ('gal 'brel)
→ ତੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ S276 (sel 'jug sgrub 'jug)
→ ତੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ R459 (gzhan sel)
→ ତੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ R119 ('gal 'brel)
→ ତੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ S275 (sel 'jug sgrub 'jug)
→ ତੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ S284 (rigs brjod dang tshogs brjod)

ਤੁਦਨਕਸਾਧਿਕਾ

- ତੁਦਨਕਸਾਧਿਕਾ R062 (rgyu 'bras chung ba)
→ ତੁਦਨਕਸਾਧਿਕਾ R061 (rgyu 'bras chung ba)
→ ତੁਦਨਕਸਾਧਿਕਾ R058 (rgyu 'bras chung ba)
→ ତੁਦਨਕਸਾਧਿਕਾ R028 (ldog pa ngos 'dzin)

ਤੁਦਕਸਾਨਾਨਾਧਿਕਾ

- ତੁਦਕਸਾਨਾਨਾਧਿਕਾ R012 (gzhi grub)
→ ତੁਦਕਸਾਨਾਨਾਧਿਕਾ R002 (ka dog)
→ ତੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ R044 (yin log min log)

ਤੁਦਨਦਸਾਮੇਨਧਿਕਾ

—1. Sorted by subjects—

→ ସୁଖପାଦକ୍ଷିତାପାଦକ୍ଷିତାପାଦକ୍ଷିତା S134 ('gal 'brei)

ପ୍ରେଦ୍ମନ୍ତମାଧିକାରୀଙ୍କର ପରିଚୟ

→ བ୍ରୁ-ଦ୍ଵ-କ୍ଲେଶ୍-ପ୍ରିନ୍-କ୍ଳା ଶୁମ-ଧ-ଦ-ମୀ-ଧଶ-ଧ-ପ୍ରିନ୍-ଦ୍ଵେଶ-ଧଶ-ତ୍ରୁଷା R108 ('gal 'brel)

ପ୍ରତିକା

→ ସୁଧ୍ୟାପ୍ତିଦ୍ୱୀପେଶାପ୍ରିକ୍-ପଶ୍ଚାତ୍ବା R085 (spyi bye brag)

ପ୍ରଦ୍ରଶ୍ୟାନିକା

→ རྒྱྲ-ସ୍ତ୍ରୀ-ସୁ-ୟୋଗୀ རྒྱྲ-ସ୍ତ୍ରୀ-ଦେଶୀ-କୁ-ପ୍ରିନ୍-ସମ୍ବନ୍ଧୀ ରୋୟ୍ୟ (rgyu 'bras chung ba)

ସ୍ଵର୍ଗମଧ୍ୟକ୍ଷେତ୍ରକା

↪ རྩྗྤྱିନ୍ଦା S148 (rdzas ldog)

ਤੁਲਨਾ ਵਿਖੇ ਸਾਡੀ ਅਤੇ ਪ੍ਰਭਾਵਸ਼ਾਲੀ ਹੈ।

→ ପ୍ରଦ୍ରମୀକଣାପତ୍ରେଶାଫୀକାପତ୍ରାମୁଦ୍ରା R073 (spyi bye brag)

ପ୍ରଦ୍ୟମନାଦେଶୀୟିକା

→ ଶ୍ରୀନାଥଙ୍କୁମାର୍ଯ୍ୟିକାରୀ । R172

(mtshan nyid mtshon bya)

→ ཀྲୁଦ୍ଧଦ୍ଵାୟକର୍ଣ୍ଣକଶଦ୍ଦବେଦଦେଶ୍ୟିକପଶ୍ଚତ୍ତମା R015 (gzhi grub)

༄༅༅·༄༅༅·༄༅

→ ཤ්‍රීද්‍රේෂණ්ඩ්‍රාසද්ධෘත්‍යාපා R014 (gzhi grub)

ସ୍ରୀ କନ୍ଦମାତି ମାତ୍ରମାତ୍ର

→ གྲୁଦྂଗྲୁଦྂଦྂ.ସାତେଶାଚିନ୍ଦ୍ରାଷାତ୍ରସା R005 (gzhi grub)

ସ୍ରୀ ପଦମନାଭ ପିଲାନ୍ତା

→ རྒྱྱତ୍ତୁ-ସନ୍ତୋଷ-ପ୍ରଦାନ-କେଣ-ଶାଶ୍ଵତ-ହଂ-ଶା-ରྒྱྯୁ-ସନ୍ତୁ-ପ୍ରଦାନ-କେଣ-ପ୍ରୁଣିତ-ଶାଶ୍ଵତ
R017 (ldog pa ngos 'dzin)

→ ས୍ରූද-ཀྱු-ସନ୍ତଶ-ཡେ-କେ-ଶ-ମଣ୍ଡ-ସ-ଦୀ ས୍ରූද-ཀྯ-ପକ୍ଷ-କୁଦ୍ର-ପକ୍ଷ-କ୍ଷିଦ୍ୟିକ-ସଶ-ପ୍ରସା R018 (ldog pa ngos
'dzin) R165 (mtshan nyid mtshon bya) S143 (mtshan nyid mtshon bya), S145 (mtshan nyid mtshon bya)